

第14章 自己点検・評価

(自己点検・評価)

A群 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

(自己点検・評価と改善・改革システムの連結)

A群 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の発展に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

(大学に対する指摘事項および勧告などに対する対応)

A群 文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応

現状

1. 目的

自己点検・評価については学則で次の通り定め、これを目的として運営している。

京都文教大学学則

第2条(点検および評価) 前条(第1条目的)の目的を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について、自ら点検および評価を行うものとする。

京都文教大学大学院学則

第2条(点検および評価) 本学大学院は、教育研究の向上を図り、前条の目的を達成するため、自らの点検および評価を行う。

2. 組織

学則を承けて、自己点検・評価を恒常的に行うために、1996年(平成8年)4月1日付けで「京都文教大学自己点検・評価委員会」(以下 委員会という。)が設けられた。引き続き1997年(平成9年)次の専門委員会内規が制定された。

京都文教大学自己点検・評価委員会教育研究専門委員会内規

京都文教大学自己点検・評価委員会学生サービス専門委員会内規

京都文教大学自己点検・評価委員会管理運営専門委員会内規

又、2000年(平成12年)に、大学院の設置に伴い、京都文教大学自己点検・評価委員会大学院教育研究・学生サービス・管理運営専門委員会内規が制定された。

各委員会の委員に関する事項、委員会の任務等の詳細は、「京都文教大学自己点検・評価委員会」および各委員会内規で規定されている。委員はそれぞれの担当領域に関連する教員および職員(事務局課長)で構成されている。2003年9月には、自己点検・評価活動をより機動的に行うために委員会、各専門委員会に「幹事会」を設定した。

因みに本学の自己点検・評価推進組織は別表「2004年度京都文教大学自己点検・評価推進組織」の通りである。

3. 活動状況

自己点検・評価

2000.3 大学基準協会「大学評価マニュアル」を基本に、自己点検・評価を実施

2001.3 「京都文教大学の現状と課題 1996-2000」（自己点検・評価報告書）発行

教育研究活動

1999.5 第1回「教育研究活動報告書」発行

2000.5 第2回「教育研究活動報告書」発行

2004.5 第3回「教育研究活動報告書」発行

授業評価

2002.12 授業評価報告書 発行

2004.3 学生による授業評価 調査結果報告書発行

第三者評価

2003.5 第三者評価の義務化に備え、大学基準協会の加盟判定審査を目標に活動を進めることになったが、必ずしも活動が十分でなかったことから審査申請は1年見送られ、2005年7月に改めて申請することになった。

課題と今後の方向

本学の自己点検・評価活動は、2000年に学部完成年度を迎えておこなったものが初めてである。大学基準協会の「大学評価マニュアル」を基本に、自己点検・評価委員会が活動全体の方向付けを行い、各専門委員会がそれぞれの担当分野の点検・評価を行なった。この点検・評価の結果は「京都文教大学の現状と課題 1996-2000」（自己点検・評価報告書）として発刊された。しかしながら、自己点検・評価の重要性についての全体理解が浅く、表面的に流れた嫌いがあり、大学全体としての踏み込んだ取り組みは今一歩といわざるを得なかった。その後は、自己点検・評価のための委員会、関連規程等、全体的な体制と仕組みは整っているが、全学的・組織的には推進できず、各学科・各部署内での点検・評価、及び改善施策の実施に止まっていた。これを改善し、実質的にルーティンとして運用するために、新たに専門委員会の幹事会を設けたが、全学的・組織的な取り組みの機運を生むには至らなかった。

しかし、第三者評価の法制化を受け、ようやく学内において自己点検・評価の重要性が認知され、大学基準協会への加盟を決断し、審査に備えて自己点検・評価に取り組むこととなった。2004年7月に、大学基準協会の説明会に大学の役職教員が参加したことにより、自己点検・評価に対する認識は深まり、教務委員会・学生委員会をはじめとする各委員会や、それぞれの学科会で検討・実施してきた個別の点検・評価を、大学基準協会の基準に則った、客観的且つ高い基準のもとで点検・評価を行う準備が整った。これにより、2004年度の活動は、2003年度以前に比べ格段に活発になったと言える。

ただし、各部門が日常の業務において一定の期間毎に点検・評価を行ない、その結果が大学全体としてまとめられ、改革に反映していくような組織的な仕組みの構築には至っておらず、大学基準協会加盟審査のために改めて自己点検・評価活動を行ったというのが実情である。自己点検・評価業務に日常的に携わる教職員を配置するなど、活発な自己点検・評価を実施する体制を構築することが今後の課題であると認識している。

大学に対する指摘事項および勧告などへの対応

1. 文部科学省からの指摘事項

(1) 留意事項

大学設置認可時（1995年/平成7年12月22日）、大学院修士課程設置認可時（1999年/平成11年12月22日）、大学院博士課程設置認可時（2001年/平成13年12月20日）の留意事項は次の通りである。

大学設置認可時の留意事項

1. 編入学生の受け入れについては、定員の遵守、学科の趣旨に添った既修得単位の認定および履修上の配慮に努めること。
2. 京都文教短期大学服飾衣装学科については平成8年4月1日で学生募集を停止、在学生の卒業を待って廃止すること。

大学院修士課程設置認可時の留意事項

1. 京都文教短期大学児童教育学科幼児教育専攻の定員超過の是正に努めること。

大学院博士課程設置認可時の留意事項

1. 京都文教短期大学家政学科生活文化専攻、食物栄養専攻、児童教育学科の推薦入学の在り方について検討すること。

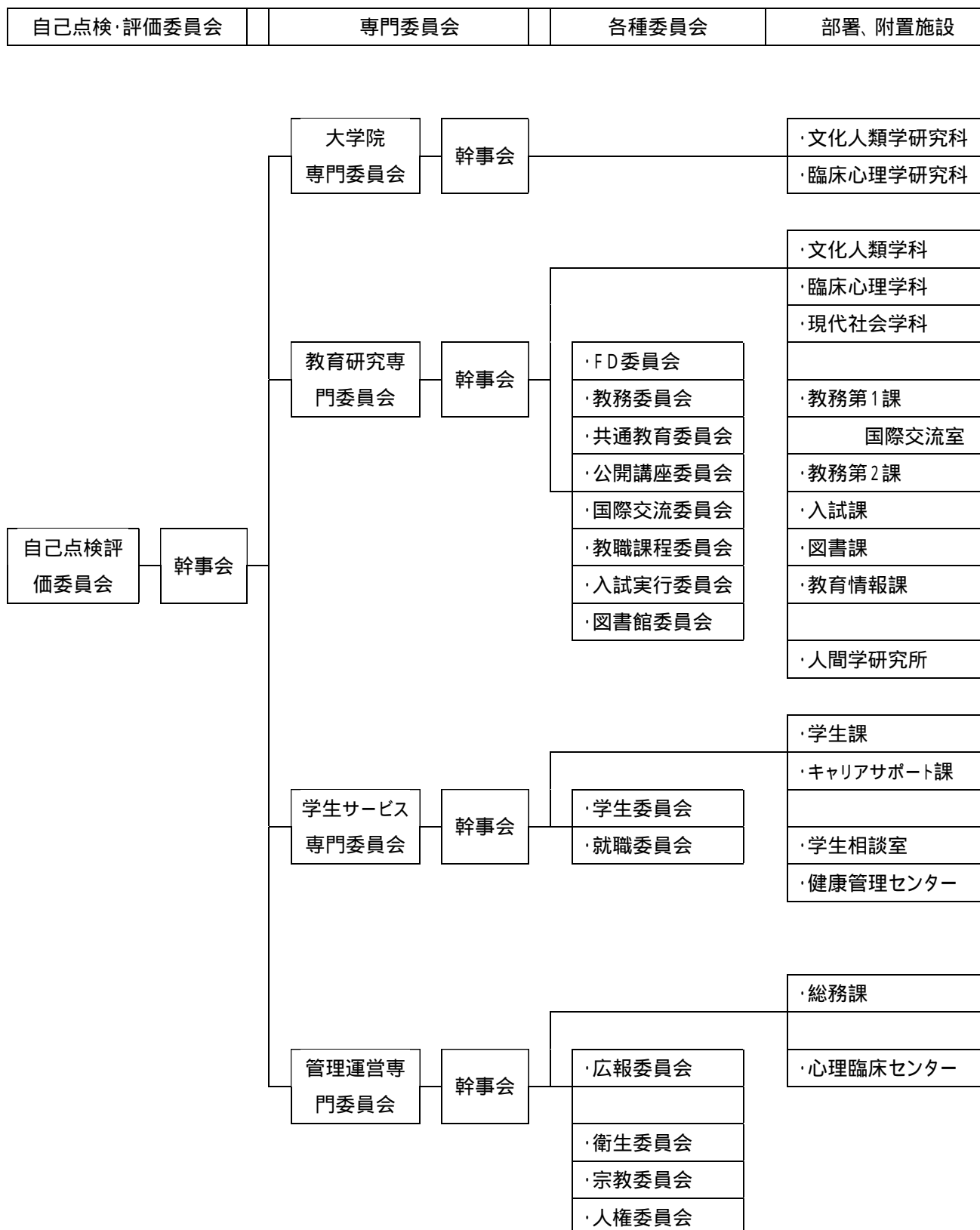
(2) 履行状況

留意事項に対するそれぞれの履行状況は別表の通りである。

2. 大学基準協会からの勧告

大学基準協会については、今回、初めて加盟判定審査申請を行うものである。

2004年度京都文教大学 自己点検・評価推進組織



留意事項に対する履行状況等		大学設置認可時（1995年12月22日）の留意事項および履行状況	別表2
区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未 履 行 事 項 について の 実 施 計 画
認 可 時 (平成7年12月22日)	1. 編入学生の受入れについては、定員の遵守、学科の設置の趣旨に沿った既修得単位の認定及び履修上の配慮につとめること。	1.入試制度等 本年度より、文化人類学科については指定短大からの推薦制を導入した。3名の推薦依頼に対し、5名の推薦があった。 また、平成10年10月15日の拡大会にて「文部大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者」について、出願を認めることが決定した。 (平成11年3月9日学則変更届出済)但し、本年度の出願者はなかった。 2.選抜 平成10年10月23日本学併設校京都文教短期大学からの「特別編入学選抜」を、平成10年11月15日文化人類学科の「学科指定短大編入学選抜」及び公募による「一般編入学選抜」を行い、文化人類学科24名、臨床心理学科25名が合格した。 3.履修オリエンテーション 平成11年3月25日、3年次編入学予定者全員に対し、個別の履修オリエンテーションを実施した。 4.既修得単位の認定 文化人類学科入学者23名、臨床心理学科入学者22名に対し、昨年度制定した基準に基づき個別に最高70単位、最低58単位を認定した。 5.履修指導 前年度同様、時間割編成上は専門科目を同一コマに多く配置することを出来るだけ避け、希望する科目を履修できるように配慮した。また、編入学生のための履修相談窓口(教務課長)を設け、履修指導の徹底をはかった。	特になし
	2. 京都文教短期大学服飾意匠学科については、平成8年4月1日で学生募集を停止、在学生の卒業を待って廃止すること。	(1)平成9年4月16日の教授会で2名の在籍学生の退学(3月31日付)が承認され、在籍学生がいなくなったので、平成9年6月30日服飾意匠学科の廃止届を提出した。 (2)その結果、平成9年8月5日付で、廃止が認可されたので、服飾意匠学科を廃止した。	特になし
年 次 計 画	特になし	特になし	特になし
履 行 状 況 調 査 時 (平成 年 月 日)			

大学院修士課程設置認可時の留意事項および履行状況

別表3

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項についての実施計画
設 置 時 (平成11年12月22日)	京都文教短期大学児童教育学科幼児教育専攻の定員超過の是正に努めること。	京都文教短期大学児童教育学科幼児教育専攻の入学 者数については、 平成11年度入学者222名、入学定員超過率1.39倍 平成12年度入学者193名、入学定員超過率1.21倍 平均入学定員超過率1.3倍に入学定員超過の是正に 努めました。	「 な し 」
履行状況調査時 (平成13年5月1日)	「 な し 」	「 な し 」	「 な し 」

京都文教大学大学院文化人類学研究科文化人類学専攻設置に係る履行状況報告書（平成13年5月1日時点）より抜粋

京都文教大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻設置に係る履行状況報告書（平成13年5月1日時点）においても同一の記載

別表3 大学院修士課程設置認可時に留意事項が付された根拠データ

別表4

同一学校法人（又は都道府県等）が設置する他の大学等の状況

区		分	10年度	11年度
京都文教短期大学	家政学科 生活科学専攻	入学定員 (募集人員) A	[30] 80 人	[30] 80 人
		志願者	(147) 237 人	(139) 241 人
		合格者	(103) 168 人	(93) 166 人
		入学者 B	(75) 103 人	(72) 102 人
		定員超過率 B / A	1.29 倍	1.28 倍
		推薦入学率	0.94 倍	0.90 倍
	家政学科 生活文化専攻	入学定員 (募集人員) A	[50] 100 人	[50] 100 人
		志願者	(133) 237 人	(127) 222 人
		合格者	(124) 214 人	(112) 199 人
		入学者 B	(91) 127 人	(86) 130 人
		定員超過率 B / A	1.27 倍	1.30 倍
		推薦入学率	0.91 倍	0.86 倍
	家政学科 食物栄養専攻	入学定員 (募集人員) A	[] 100 人	[] 100 人
		志願者	(233) 370 人	(239) 391 人
		合格者	(110) 165 人	(84) 163 人
		入学者 B	(85) 117 人	(74) 118 人
		定員超過率 B / A	1.17 倍	1.18 倍
		推薦入学率	0.85 倍	0.74 倍

区		分	10年度	11年度
京都文教短期大学	児童教育学科 幼児教育専攻	入学定員 (募集人員) A	[] 160 人	[] 160 人
		志願者	(597) 964 人	(524) 789 人
		合格者	(189) 291 人	(164) 313 人
		入学者 B	(157) 208 人	(146) 222 人
		定員超過率 B / A	1.30 倍	1.39 倍
		推薦入学率	0.98 倍	0.91 倍
	児童教育学科 初等教育専攻	入学定員 (募集人員) A	[] 50 人	[] 50 人
		志願者	(86) 202 人	(76) 145 人
		合格者	(65) 106 人	(58) 106 人
		入学者 B	(46) 63 人	(42) 66 人
		定員超過率 B / A	1.26 倍	1.32 倍
		推薦入学率	0.92 倍	0.84 倍

大学院博士課程設置認可時の留意事項および履行状況

6 留意事項に対する履行状況等

別表 5

区 分	留意事項	履行状況	未履行事項についての計画実施
設 置 時 (平成 13 年 12 月 20 日)	京都文教短期大学家政学科生活文化専攻、食物栄養専攻、児童教育学科の推薦入学の在り方について検討すること。	設置時の時点では平成 14 年度推薦入試は終了しており、次年度の以降の履行となる。	「なし」
履行状況調査時 (平成 14 年 5 月 15 日)	京都文教短期大学家政学科生活文化専攻、食物栄養専攻、児童教育学科の推薦入学の在り方について検討すること。	「なし」	入試の種別を変更し、推薦入試および一般入試の募集人員を変更する方向で検討中。
履行状況調査時 (平成 15 年 5 月 1 日)	京都文教短期大学家政学科生活文化専攻、食物栄養専攻、児童教育学科の推薦入学の在り方について検討すること。	入試の種別を変更し、推薦入試および一般入試の募集人員を変更した結果、平成 15 年度入試において、推薦入学率が全専攻において適正範囲までは是正された。	「なし」
履行状況調査時 (平成 16 年 5 月 1 日)	京都文教短期大学家政学科生活文化専攻、食物栄養専攻、児童教育学科の推薦入学の在り方について検討すること。	平成 16 年度入試において、京都文教短期大学児童教育学科幼児教育専攻で推薦入学率が適正範囲を越えた。 (8 頁資料参考)	推薦入試の合格者数を平成 15 年度推薦合格者程度に抑えることを検討中。

京都文教大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻博士課程（後期）設置に係る履行状況報告書（平成 16 年 5 月 1 日時点）より抜粋

別表5 大学院博士課程設置認可時に留意事項が付された根拠データ

同一学校法人（又は都道府県等）が設置する他の大学等の状況

区 分		12年度	13年度		
京 都 文 教 短 期 大 学	家政学科	入学定員 (募集人員) A	[8] 78 人	[6] 76 人	
		志 願 者	(61) 169 人	(97) 149 人	
		合 格 者	(55) 160 人	(92) 137 人	
	生活科学専攻	入 学 者 B	(44) 83 人	(74) 92 人	
		定員超過率 B / A	1.06 倍	1.21 倍	
		推薦入学率	0.56 倍	0.97 倍	
	家政学科	入学定員 (募集人員) A	[16] 96 人	[12] 92 人	
		志 願 者	(135) 200 人	(150) 216 人	
		合 格 者	(111) 171 人	(123) 151 人	
		生活文化専攻	入 学 者 B	(89) 117 人	(104) 113 人
			定員超過率 B / A	1.21 倍	1.22 倍
			推薦入学率	0.92 倍	1.13 倍
家政学科	入学定員 (募集人員) A	[100] 人	[100] 人		
	志 願 者	(150) 224 人	(276) 396 人		
	合 格 者	(118) 154 人	(117) 141 人		
	食物栄養専攻	入 学 者 B	(93) 112 人	(101) 115 人	
		定員超過率 B / A	1.12 倍	1.15 倍	
		推薦入学率	0.93 倍	1.01 倍	

別表6

区 分		12年度	13年度		
京 都 文 教 短 期 大 学	児童教育学科	入学定員 (募集人員) A	[160] 人	[160] 人	
		志 願 者	(409) 625 人	(643) 884 人	
		合 格 者	(180) 239 人	(210) 249 人	
	幼児教育専攻	入 学 者 B	(165) 193 人	(187) 206 人	
		定員超過率 B / A	1.20 倍	1.28 倍	
		推薦入学率	1.03 倍	1.16 倍	
	児童教育学科	入学定員 (募集人員) A	[50] 人	[50] 人	
		志 願 者	(58) 97 人	(78) 106 人	
		合 格 者	(56) 178 人	(68) 81 人	
		初等教育専攻	入 学 者 B	(48) 61 人	(55) 65 人
			定員超過率 B / A	1.22 倍	1.30 倍
			推薦入学率	0.96 倍	1.10 倍

京都文教短期大学 定員超過率、推薦入学率（15年度～16年度）

家政学科 生活科学専攻
(平成16年度募集停止)

	15年度	16年度
入学定員	72	
臨時定員	2	
志願者	151	
合格者	116	
入学者	93	
定員超過率	1.29	
推薦志願者	101	
推薦合格者	79	
推薦入学者	68	
推薦入学率	0.94	

家政学科 生活文化専攻
(平成16年度募集停止)

	15年度	16年度
入学定員	84	
臨時定員	4	
志願者	199	
合格者	146	
入学者	108	
定員超過率	1.28	
推薦志願者	121	
推薦合格者	90	
推薦入学者	75	
推薦入学率	0.89	

家政学科 人間生活専攻
(平成16年度開設)

	15年度	16年度
入学定員		70
臨時定員		
志願者		248
合格者		113
入学者		85
定員超過率		1.21
推薦志願者		140
推薦合格者		79
推薦入学者		68
推薦入学率		0.97

家政学科 食物栄養専攻

	15年度	16年度
入学定員	100	100
志願者	357	363
合格者	139	142
入学者	106	111
定員超過率	1.06	1.11
推薦志願者	231	221
推薦合格者	90	97
推薦入学者	79	89
推薦入学率	0.79	0.89

児童教育学科 幼児教育専攻

	15年度	16年度
入学定員	160	160
志願者	880	843
合格者	256	271
入学者	208	204
定員超過率	1.30	1.27
推薦志願者	623	522
推薦合格者	173	186
推薦入学者	149	165
推薦入学率	0.93	1.03

児童教育学科 初等教育専攻

	15年度	16年度
入学定員	50	50
志願者	142	198
合格者	86	78
入学者	64	62
定員超過率	1.28	1.24
推薦志願者	96	79
推薦合格者	59	54
推薦入学者	48	49
推薦入学率	0.96	0.98

小数点第3位以下は、切り捨ててあります